

2008 年度

科目名 生物学 B	対象学科・学年 文学部全学科 1 回生 人間人社 1 回生	担当者 三浦 和彦
授業テーマ 生物とそれを取りまく世界: 生物と「環境」		
授業の概要と目標 みずからの環境条件を激しく変化させてきた人類の現在を理解するために、生物とその環境との 40 億年ちかくの歴史を振り返る。単細胞生物の誕生に始まり、多細胞生物の多様な分化と、その系統をたどる。これらの舞台である地球システムを生物の視点から眺めることにより、「暮らし」と環境とのダイナミックスを理解し、みずから分析可能になるよう学習することを目標とする		
評価方法 通常の講義時の小レポートと小テストで評価する。		
テキスト 環境再編 (エコ・リストラクチャリング)	著者 国連大学編	出版社 創芸出版
参考書 里山の自然	著者 田端 英雄 編著	出版社 保育社
授業スケジュール・内容 後期予定 : 生物圏と産業社会 第 1 回 システムとしての自然界: 生態系とはどういう概念なのだろうか。 第 2 回 生命圏における種多様性: 生物は全体としてどのような集団として捉えればよいのだろうか。 第 3 回 系統進化と生態系: 進化史において大陸の変動や隕石の落下などの出来事がもった意味はなんだろう。 第 4 回 ヒトの文明と生態系: 火の使用、集落の形成、牧畜農耕などの生態系とのかわりはどうだったのだろうか。 第 5 回 消費者としてのヒト: ヒトが消費しているエネルギーや物質の量的規模はどのくらいなのだろうか。 第 6 回 ヒトの健康と生態系: いまヒトが抱えている健康問題を生態学的に見るとどのように見えるのだろうか。 第 7 回 生物生産技術としての食: 栄養摂取における生物学的課題と問題点は何か? 第 8 回 生物生産技術としての農: 動植物生産における生物学的課題と問題点は何か? 第 9 回 生物生産技術としての医療の現状: 健康を支える医療技術の生物学的課題と問題点は何か? 第 10 回 技術社会の生態学的な意味: 技術を持ったヒトは生態系の中でどんな特異性を発揮してきたのだろうか。 第 11 回 資源・材料・工程・製品: 生態系の中で人間の産業活動はどんな側面を持っているのだろうか。 第 12 回 流通活動と情報の流れ: 生態系の中で人間の情報化社会はどんな側面を持っているのだろうか。 第 13 回 地域社会にとっての自然: 身近な自然を地球的規模で考えてみよう。 第 14 回 生態系と暮らし: あらためて、もう一度生物社会全体のなかの自分たちの位置を確認してみよう。 第 15 回 未来の構造: たった一つのかげがえのない地球の未来に我々が展望できることは何だろう。		